

《小学生の部》
佳作（警察庁交通局長賞）

茨城県下妻市立下妻小学校
4年 菊地 優莉

ただいまを言えるしあわせ

わたしは、登下校中、かならず気をつけていることがあります。それは、横だん歩道をわたるとき、信号が青になっても、車がちゃんと止まっているかを見てからわたることです。

このことを教えてくれたのはお母さんです。ある日、学校の帰り道をいっしょに歩いていたとき、わたしは信号が青になるとすぐに走って行こうとしました。すると、お母さんがわたしの手をぎゅっとぎって、

「青でも安心しちゃだめ。車がちゃんと止まったかを見てからわたるんだよ。」
と、言いました。

そのときは「なんで？」と思いましたが、お母さんはつづけて、
「運転している人が信号を見ていないときもあるし、急いでいる車もあるの。もし車が止まらなかつたらあぶないでしょ。」

と、教えてくれました。それからわたしは、信号が青になってもすぐにはわたらず、左右を見て、車がちゃんと止まったことをたしかめてからわたるようになりました。

ある雨のことです。わたしはかさをさして、横だん歩道の前で青になるのを待っていました。青になったとたん、わたしはいつものように左右を見ました。すると、右から来た車がスピードを落とさずに近づいてきました。わたしが止まっていたので、その車はやっとブレーキをかけて止まりました。もし、お母さんの言葉をわすれて走っていたら、ぶつかっていたかもしれません。

家に帰ると、いつも通りお母さんが、
「おかえり」
と、笑顔でむかえてくれます。しばらくすると、お姉ちゃんも
「ただいま」
と、元気な声で帰ってきます。夜には、お父さんも仕事から帰ってきて
「おつかれさま」
と、声をかけます。そして、四人で食たくをかこみ、
「いただきます」

と、言ってあたたかい夜ごはんを食べます。みんなで笑いながら話す時間は、何でもないようで、とても大事な時間です。こんな当たり前の日が、わたしにとって一番のしあわせです。

お母さんが言った「青でも安心しない」という言葉は、わたしのいのちを守ってくれます。そして、それは家族の笑顔を守ることにもつながります。これからも、わたしはお母さんの教えを守って、安全に道をわたります。そして、毎日元気に「ただいま」と言って、家族みんなが笑顔でいられるようにしたいです。